

イーヴ・フェラトン教授をお招きして

七條めぐみ 愛知県立芸術大学大学院音楽研究科博士前期課程（音楽学領域）

2012年2月22日(水)、フランスのナンシー第2大学教授のイーヴ・フェラトン博士（音楽学）を招いて、愛知県立芸術大学中リハーサル室にて特別講座が開催された。

フェラトン教授はパリ第4（ソルボンヌ）大学にて音楽学を修め、その研究分野はヴェルサイユ宮殿におけるグラン・モテからオペラ・コミック、ロレーヌ地方の音楽史、作曲家ヴィトコフスキー、20世紀のリヨンの音楽生活など多岐にわたる。今回の講座は、前半がフェラトン教授による講演「ベルリオーズの音楽」、後半が学生の発表による公開ゼミというプログラムで行われた。

1. フェラトン教授の講演「ベルリオーズの音楽」

今回の講演では、エクトル・ベルリオーズ（1803-1869）の《幻想交響曲 Symphonie fantastique》（1830）を中心に、彼の音楽の新しさについて語られた。通訳は井上教授が担当した。

ベルリオーズの《幻想交響曲》は、彼の代表作であると同時に、初の標題交響曲としても知られる作品である。フェラトン教授は、《幻想交響曲》がいかに「ファンタスティック」（奇想天外）であるか、次の4つの観点から説明した。

- （1）5楽章構成と、各楽章に付けられた標題。
- （2）シンメトリックな配置による、独特のオーケストレーション。
- （3）コール・アングレなどの新しい楽器や、特殊な奏法の使用。
- （4）鐘の音など、宗教的な素材の使用。

また本講演では、ベルリオーズだけでなく同時代の作家や画家を交えた、フランス・ロマン主義全体の動きもテーマとなっていた。今回、ベルリオーズの人生と《幻想交響曲》を見てみることで、彼がロマン主義における「英雄」のイメージ——貧しく波乱に満ちているが、それに屈せず芸術性を追求する人生——を体現した人物であったことが分かった。

2. 学生の発表による公開ゼミ

後半は学生が自らの研究テーマについてフランス語または英語で発表をし、フェラトン教授がそれについて講評を述べた。発表の概要は以下のとおりである。

(1) 七條めぐみ(博士前期課程2年)「ゲオルク・ムッフアートの《音楽の花束》に見られる様式の混合」:バロック時代に国際的に活動した作曲家ムッフアートが、バッハやテレマンに先駆けて各国の音楽様式を混合しようとする手法を、曲集の「序文」と楽曲の面から分析した。

(2) 森本(鳥山)頼子(博士後期課程3年)「シェレメーチェフ家の農奴劇場におけるフランス・オペラ受容の実態」:18世紀ロシアのシェレメーチェフ家の劇場が、フランスからオペラを輸入したプロセスについて、パリの音楽家イヴァールが運営主ニコライのために作成した「計算書 *mémoire*」をもとに読み解いた。

フェラトン教授は、今回のゼミのために、それぞれのテーマについてかなり下調べをしてくださったようである。発表後には、フランス音楽研究者ならではの視点から多くの講評をいただき、発表者の今後の研究の大きな励みとなった。

今回の講座では、普段なかなか機会のない外国の音楽学者の講演を聞くことができ、その場にいた者全員が大いに刺激を受けたことだろう。また、ゼミ発表



レクチャーをするイーヴ・フェラトン教授と通訳の井上先生

では、フェラトン教授と学生との双方向のコミュニケーションも行うことができた。
最後に、フェラトン教授が井上教授に宛てた礼状の一部をここに掲載したい。

昨晚フランスへ帰国してから、一刻も早く、私がいかに日本での滞在、とりわけ愛知で過ごした一日に満足しているかをお伝えしたいと思いました。

講演にせよゼミにせよ、あなたのすばらしい学生たちに囲まれて仕事ができとても幸せでした。メグミには、もう一度お礼を伝えてください。彼女は私を名古屋駅にほど近いすばらしい寺院に案内してくれたあと、駅まで同行してくれました。彼女には、ルーヴル美術館のガイドブックを渡しました！二人のご同僚がずっと同席してくださったことにも感謝しています。(中略)

メグミとヨリコには、彼女たちの発表と研究に、くり返し称賛と激励の言葉を贈ります。次にいつ日本に行けばよいかを知らせてください！(中略)

いろいろとどうもありがとう。またすぐに会いましょう。

イーヴ・フェラトン



特別講座
イーヴ・フェラトン教授
平成 24 年 2 月 22 日 (水)
12:50~16:00

中リハーサル室

第 1 部：講演「ペルリオーズの音楽」(仏語)
通訳：井上さつき

第 2 部：公開ゼミナール (15:00 開始予定)
学生による研究発表 (外国語) とフェラトン教授による講評
1. 七條めぐみ (博 2) 「ゲオルク・ムツファートの
《音楽の花束》に見られる様式の混在」(仏語)
2. 森本(青山) 鏡子 (博 3) 「シェレメーチェフ家の
農奴劇場におけるフランス・オペラ受容の実態」

フランス・ナンシー第一大学の音楽学の教授であるイーヴ・フェラトン博士はフランス音楽研究の世界的な権威です。
パリ・ソルボンヌ大学でモン・グレティアン教授の下で学んだフェラトン教授の研究対象は幅広く、その研究は、ヴェルサイユ宮殿におけるグランモテからオペラ・コミック・ロレーヌ地方の音楽史から作曲家ヴェルディ・マシネを中心とした 20 世紀前半におけるリヨンの音楽生活にまで及んでいます。

主催：音楽学コース

大学間連携事業「境界の消失と再生」 イン USA

井上さつき 愛知県立芸術大学音楽学部教授（音楽学）

1 プロジェクトの概要

愛知県立芸術大学は名古屋大学大学院国際言語文化研究科と連携して、2008 年度以降、毎年、シンポジウムやワークショップなど、さまざまな事業を行なってきた。平成 23 年度は愛知県公立大学法人理事長特別研究費を得てプロジェクト『大学間連携事業「境界の消失と再生」イン U S A』を実施した。これは、愛知県立芸術大学と名古屋大学、及びアメリカ合衆国インディアナ州のバトラー大学（インディアナポリス）との連携によって、芸術に関する国際シンポジウム・講演会を催し、また新作を含む作品発表を行なうことを主たる目的としたもので、本学からは、作曲の小林聡、音楽学の井上さつき、油画の小林英樹、名古屋大学から藤井たぎるが参加した。アメリカのバトラー大学は 1 世紀以上の歴史をもつ名門私立大学で、音楽学部は特に定評がある。

2 これまでの大学間連携

愛知県立芸術大学と名古屋大学大学院国際言語文化研究科による連携は、2008 年度は「現代日本の音を求めて：From the Sound - To the Sound」、2009 年度は「戯れのテクノロジー：音楽の戯れ」、2010 年度は「境界の消失と再生：現代音楽の諸相」がテーマとしてシンポジウムやワークショップなどを実施してきた。さらに 2010 年度には愛知芸術文化センターと愛知県立芸術大学と名古屋大学大学院国際言語文化研究科との三者の連携により、公開講座「J-Pop 観賞術」を開催した。

このうち、2010 年度に開催したシンポジウム・ワークショップ「境界の消失と再生：現代音楽の諸相」では、バトラー大学教授で作曲家のマイケル・シェリーによる基調講演とその講演テーマに関わる国際シンポジウムが小林英樹、井上さつき、藤井たぎるによって行なわれ、さらにこのテーマに基づいて小林聡のプロデュースによるマイケル・シェリー作品コンサートと愛知県立芸術大

学学生有志による作曲ワークショップが催された。このイベントは多くの研究者、学生、一般市民の参加を得て、一定の成果を収めることができた。このシンポジウム・ワークショップの成功を踏まえて、今回のプロジェクトは、この場で提起された課題をさらに深く掘り下げ、あらたな展望を得るために企画された。

3 プロジェクトの内容

今回のテーマである「境界の消失と再生：芸術におけるオリジナリティとフェイク」は、開催場所をバトラー大学に移して、三大学連携事業としてさまざまなイベントが企画・実行された。講演ではとくに芸術における「オリジナル」と「フェイク」の境界に焦点を当て、芸術概念の再検討とポスト産業資本主義社会における芸術の果たすべき役割について、小林聡、小林英樹、藤井たぎる、井上さつきが、それぞれの専門の立場から口頭発表を行った。

昨年度、マイケル・シェリー教授の作曲作品が愛知県立芸術大学の学生によって演奏されたが、今回は小林聡による書き下ろしのオーケストラ作品がバトラー大学交響楽団によって初演され、また彼の室内楽作品がバトラー大学の学生によって演奏されるという大がかりなイベントとなった。特にオーケストラの新作は、バトラー大学の新学長の就任記念コンサートで初演され、大成功を収めたことは特筆すべきであろう。こうして、単に理論面だけでなく、実践面における交流によって、研究テーマがいっそう深められた。

帰国後、当日使われた英語原稿を再録し、それに日本語の要旨を添付した報告書を作成し、関係機関に配布した。2012年2月28日には、このプロジェクトで得られた成果を踏まえて、愛知芸術文化センターにおいて公開講座を催した。中日新聞で取り上げられたこともあり、公開講座には多数の参加者があり、実り多いものとなった。

4 プロジェクトの主な日程

2011年11月9日（水）バトラー大学 リリーホール

小林英樹の講義（美術学生向けのクラスにて）

2011年11月10日（木）バトラー大学 リサイタルホール他

講演（１）：小林 聡・井上さつき・小林 英樹・Shane Monds
 2011 年 11 月 11 日（金）バトラー大学 リサイタルホール
 講演（２）：Zane Merritt・藤井たぎる・Rusty Jones・Kazuaki Shiota
 国際シンポジウム 「境界の消失と再生」
 室内楽コンサート（小林聡作品含む）
 2011 年 11 月 13 日（日）バトラー大学 コンサートホール
 バトラー大学交響楽団演奏会にて 小林聡『アストライアー』世界初演
 2011 年 11 月 14 日（月）インディアナ大学／バトラー大学
 インディアナ大学における講演（小林 聡・藤井たぎる）
 バトラー大学における井上さつきの講義（大学院の音楽学のクラスにて）

2012 年 2 月 28 日（火）愛知芸術文化センター
 公開講座「芸術におけるオリジナリティとフェイク」



2012 年 2 月 28 日（火）の公開講座の風景
 愛知芸術文化センター 12 階・アールスペース EF にて